

## 文脈を用いたカリキュラム開発 プロジェクト (ストーリー中心型カリキュラム: SCC)

ユニットA 担当  
教授システム学専攻 助教  
根本 淳子

## 文脈を用いたカリキュラム開発 (ストーリー中心型カリキュラム: SCC)

- 「ゴールベースドシナリオ教授計理論」を用いたカリキュラム開発手法
  - 文脈を用いて学習者の実践的なスキルの向上を意図したもの
- SCCの実践事例は(実施当初は)国内で存在しておらず、本プロジェクトでは、国内初のSCCを実現させ、学習環境を構築するための知見を整理することを目指している

## 本研究に取り組もうとした理由

- 大学院教育実質化の一つの方向性
- インストラクショナルデザイン最新の理論の採用
- 本実践を学習者と共有し、本分野への関心と知識をさらに高めるための機会提供

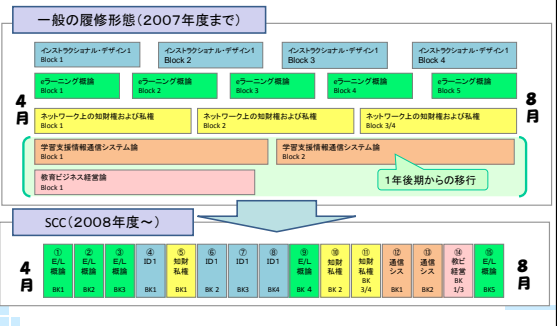
## ストーリー中心型カリキュラム 実践内容

- 対象: 教授システム学専攻 博士前期課程1年次 実務家養成を目的としたカリキュラム
  - 前期5科目, 後期4科目の必須科目を対象
- 学習アプローチ: 対象科目に共通する実践的応用場面のシナリオが与えられ、そのストーリーの中で提出される課題に取り組む(eラーニング専門家)
- 教育設計の特徴: シナリオと対象科目が関連付けされている
  - シナリオ上の課題一つ一つが、対象科目の課題の一つとマッピングされている

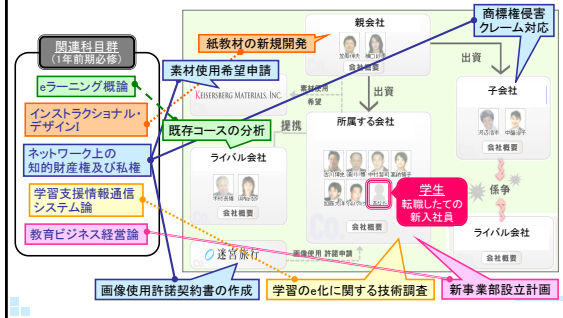
## SCCの学習スタイル



## 構造化 & 系列化設計の結果 ~1年前期の科目構成の組替え~



## 既存科目とストーリーの関係性 (前期科目)



## 本専攻の教育実践から得られた 研究成果

- I-A-12. [★A] Nemoto, J., Oyamada, M., Shibata, Y., & Suzuki, K.(2011). "Learning Sketch": A Tool for Learning Reflection Activity. International Journal for Educational Media and Technology, 5(1), 162-175.
- I-A-22. [★A] Nemoto, J., Kubota, S., Migita, M., Nagai, T., Kitamura, S., Kita, T.& Suzuki, K.(2010). Design-Based Research of Authentic Learning: Lessons Learned From Improving an Online E-learning Specialist Graduate Program. The Journal of Information and Systems in Education, 9 (1), 57-68
- I-C-8.[★A] Nemoto, J.& Suzuki, K. (August, 2011) Evaluation of an Online Orientation Course for Online Graduate Students. A paper presented at ICoME 2011 (International Conference on Media in Education), Korea. (Proceedings, p.63)

## 学習デザインの改善と 学習の深化を目指した デザイン研究アプローチを用いた実践

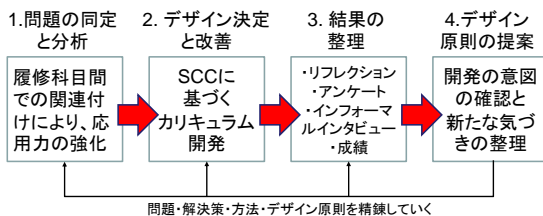
根本 淳子<sup>1</sup>・柴田 喜幸<sup>1,2</sup>・鈴木 克明<sup>1</sup>  
 熊本大学大学院教授システム学専攻<sup>1</sup>  
 産業医科大学産業医実務研修センター<sup>2</sup>

I-A-11  
 [★A][★C]【2012年度論文賞】根本淳子・柴田喜幸・鈴木克明(2011) 学習デザインの改善と学習の深化を目指したデザイン研究アプローチを用いた実践. 日本教育工学会論文誌, 35(3) (特集号:新時代の学習評価), 259-268

## 論文の概要

- デザイン研究 (Design-based research : DBR)を用いた研究
  - 定期的な改善サイクルを行う
  - 新たな理論・デザイン原則・人工物・実践などを生み出すことを意図する
  - よりよい教育実践を生み出すことの重要性に焦点を当てる
- 採用したアプローチ
  - ストーリー中心型カリキュラム (SCC)
- 得られた成果 (2008年度と2009年度の実践より)
  - 実践者のリフレクションを促すだけではなく、学習者の内容理解を深める効果
  - 学習者個人と学習共同体双方への影響を確認

## 実践プロセス



Reeves, T. C. (2006)の図をもとに作成

## 今後の抱負

- 知見をデザイン原理として整理し、SCC実践に関する学習者の声を収集し整理していくこと
- 本実践をデザイン研究を用いて新たなデザイン原則を導き出すこと